

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大船一丁目プロジェクト	階数	地上6F
建設地	鎌倉市大船一丁目316-81、336-178	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2018年8月8日
敷地面積	1,381㎡	作成者	大和ハウス工業(株)横浜支社
建築面積	594㎡	確認日	2018年8月9日
延床面積	3,460㎡	確認者	大和ハウス工業(株)横浜支社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外のオンサイト手法 ④上記④オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・室内環境、サービス性能への配慮を行っている。 ・建物の省エネルギー性能を高め、資源、マテリアルの確保に努めている。 ・敷地内外環境への配慮を行っている。 		
<h4>Q1 室内環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・開口部遮音性能に配慮している。 ・宿泊部には高い昼光率を確保している。 	<h4>Q2 サービス性能</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・客室天井高は2.5mとし、広さ感に配慮している。 ・防汚性の高い建材の採用等、建物の維持管理に配慮している。 ・耐用年数の長い、給排水管を採用している。 	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・中、高木、コウライシバを設置している。 ・景観への配慮を行っている。
<h4>LR1 エネルギー</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・グラスウール、ポリスチレンフォーム等を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮している。 	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・自動水栓、節水型便器の採用等、建物の節水性能に配慮している。 ・リサイクル材の活用にも努めている。 	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー性能を高め、LCCO₂排出率を削減することで地球温暖化防止に努めている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される